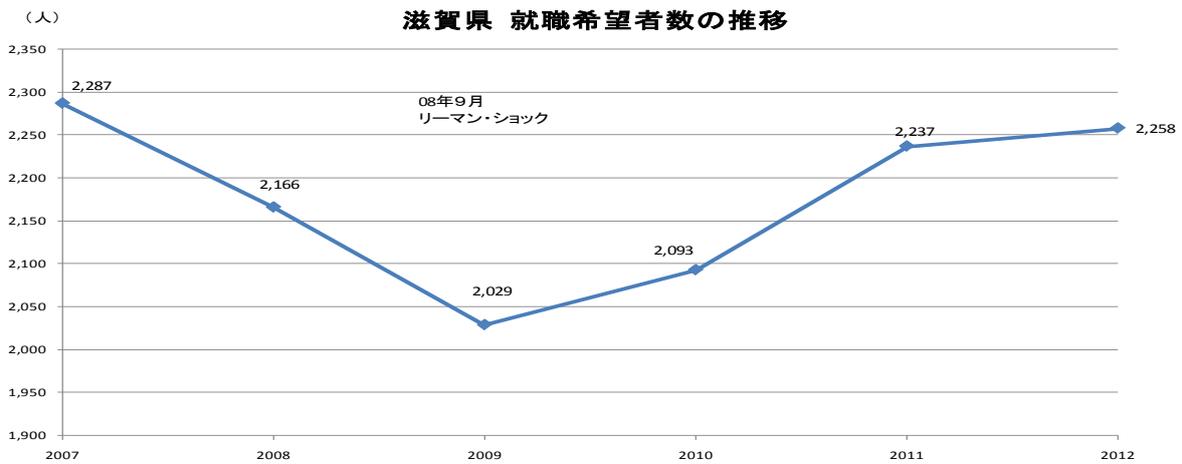


# 学生の内定率の推移について

卒業シーズンが終わり、新たな進路に向かう準備を始めている人も多いのではないかと。そんな中、文部科学省が高校・大学の内定率をまとめた。この春卒業した学生達の内定率についてみたい。

## 1. 高校生の就職希望者の推移

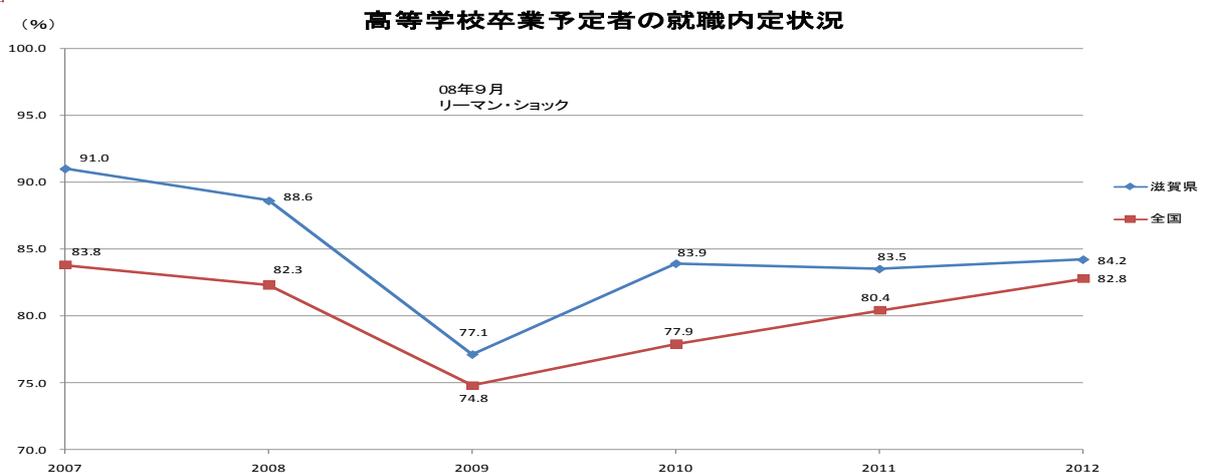
今年の春に滋賀県の高校を卒業するのは12,751人で、このうち就職希望者は2,258人であった。就職希望者は2008年9月に発生したリーマン・ショックの影響により、09年には2,029人まで減少したが、その後は増加し続けている。



資料: 文部科学省「高等学校卒業(予定)者の就職(内定)状況に関する調査」  
(注: 各年とも12月末時点)

## 2. 高校生の就職内定率は上昇傾向

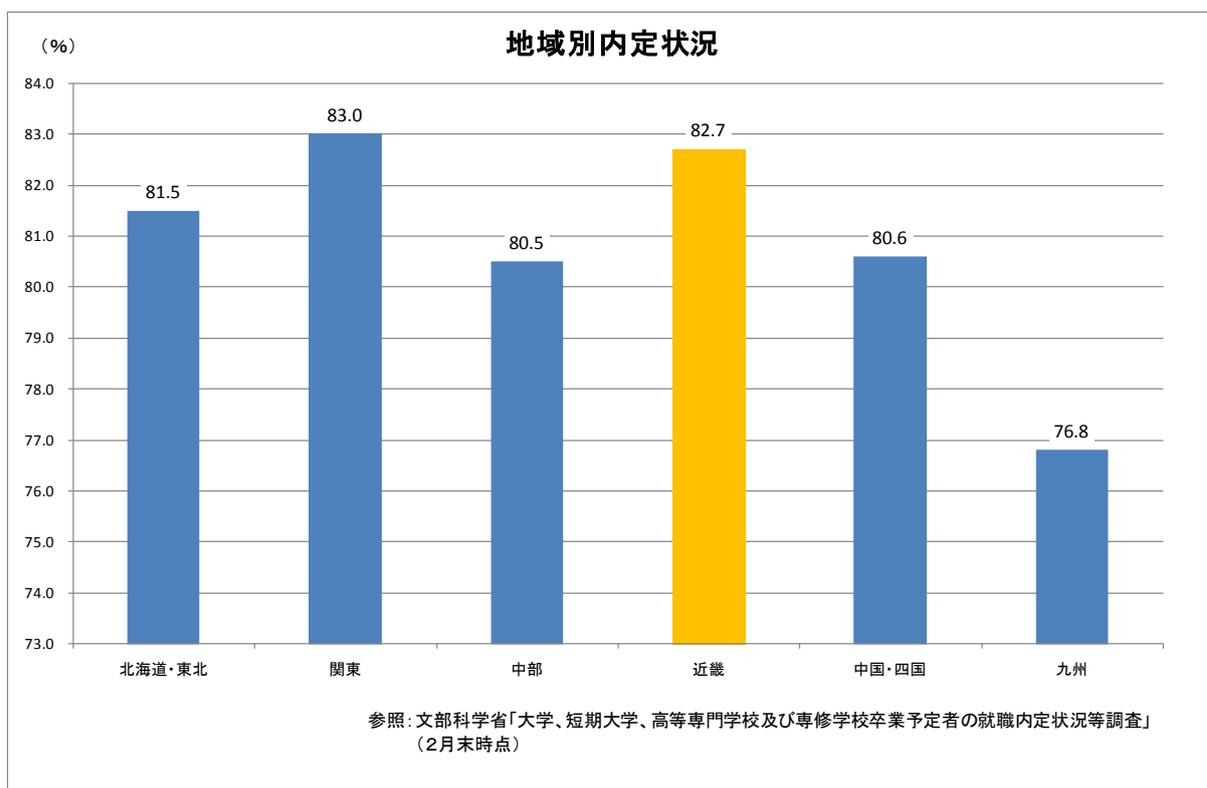
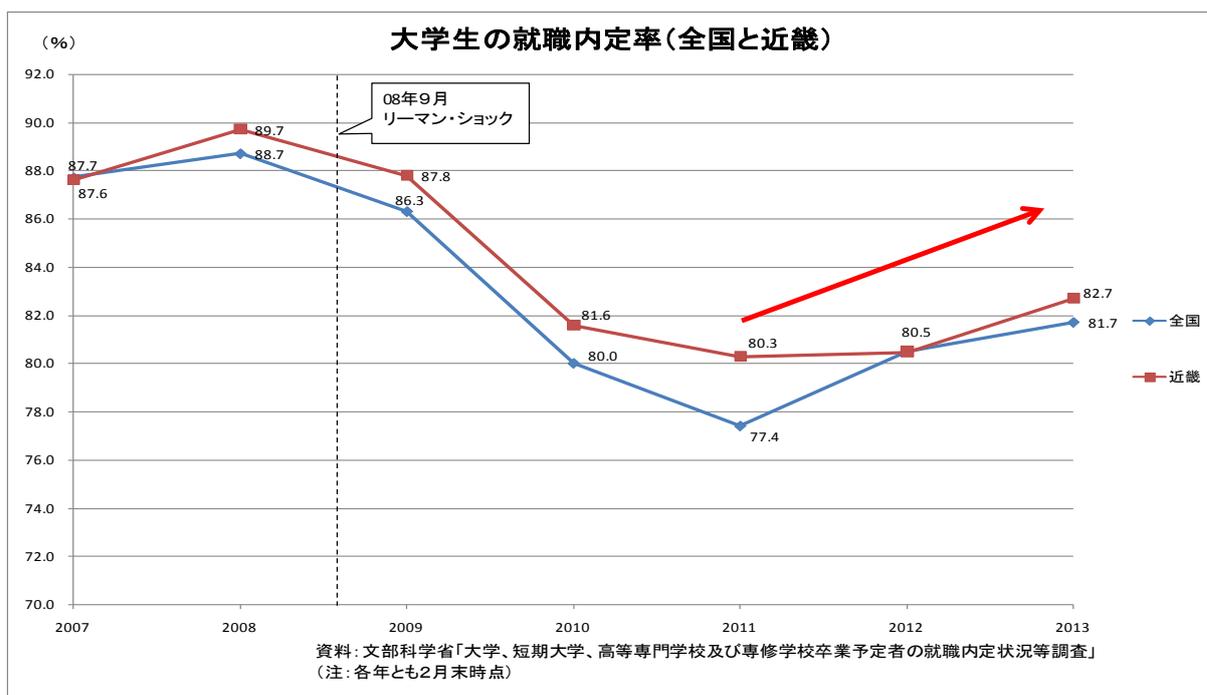
高校生の就職内定率を過去5年間でみると、08年に発生したリーマン・ショックの影響を受けて、滋賀県の内定率は77.1% (前年比-11.5ポイント)、全国も74.8% (-7.5ポイント) と大幅に低下した。しかし、その後は回復傾向にあり、直近の12年12月末時点では全国が82.8%、滋賀県でも84.2%となり、ともにリーマン・ショック発生前(07年)の数値まで徐々に戻りつつあることがわかる



資料: 文部科学省「高等学校卒業(予定)者の就職(内定)状況に関する調査」  
(注: 各年とも12月末時点)

### 3. 大学生の就職内定率は近畿が全国を上回る

大学生の就職内定率を過去5年間でみると、08年は全国で88.7%、近畿で89.7%であった内定率はその年の9月に発生したリーマン・ショックの影響を受けて大幅に下がり続け、11年には全国77.4%（08年比 -11.3ポイント）、近畿80.3%（同 -9.4ポイント）まで落ち込んだ。しかし、直近の13年2月末時点では、全国が81.7%、近畿が82.7%となり、回復傾向にある。さらに、近畿は全国の平均を1.0ポイント上回った。また、内定状況を地域別でみると、最も内定率が高かったのは関東で83.0%、次いで近畿の82.7%となり、反対に最も少なかったのは九州で76.8%だった。



#### 4. 内定率回復への期待高まる

昨年採用する企業側も長引く円高や中国経済の減速など厳しい経営環境が続いていたが、今年に入ってから景気に徐々に明るい兆しが出始め、景気回復への期待が高まっている。こうした中、就職活動は依然として厳しいものの、今後、内定率が少しずつ回復傾向をたどることが期待される。

2013年3月  
しがぎん経済文化センター  
山西 麻美